

岡山県西部衛生施設組合

新ごみ焼却施設整備事業に係る環境影響評価

準備書の概要

準備書住民説明会

令和4年3月13日(日)

令和4年2月 岡山県西部衛生施設組合

本日の説明内容

1. 環境影響評価について
2. 対象事業の概要
3. 環境影響評価の項目
4. 環境影響評価の結果
5. 事後調査の計画
6. 縦覧の案内・意見書の提出

1. 環境影響評価について

環境影響評価、準備書とは？

環境影響評価（環境アセスメント）とは

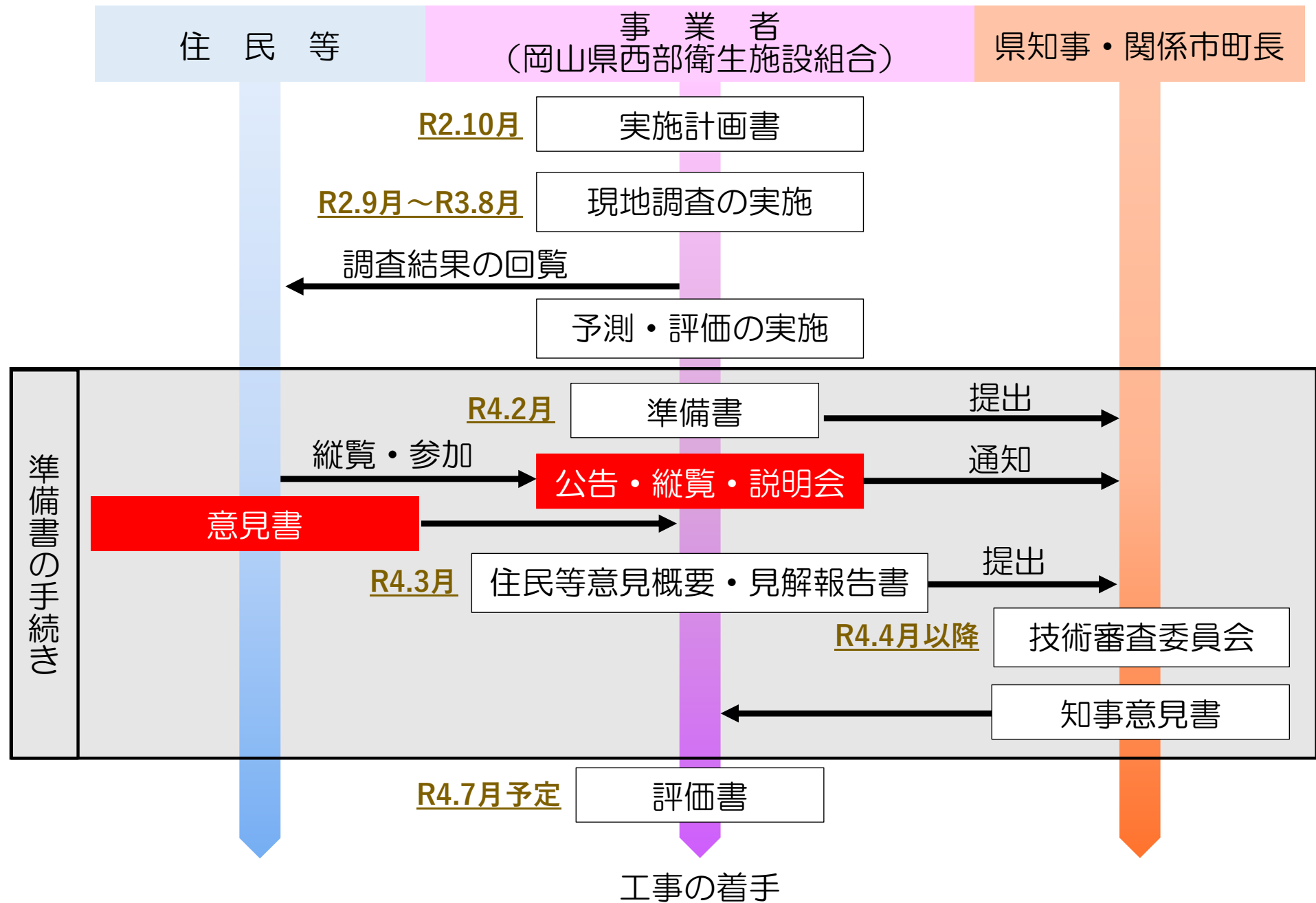
事業者が事業内容など、その詳細を決定するにあたり、あらかじめその事業に係る環境への影響について、事業者が自ら調査・予測評価を行い、周辺住民や行政機関等の意見を踏まえて環境に配慮した事業計画とする手続きのことです。

準備書とは

環境影響評価（調査・予測・評価）の結果について環境の保全の見地からの意見を聴くための準備として、作成した図書です。

準備書に対する手続きを経て、環境影響評価結果をとりまとめた評価書が作成されます。

環境影響評価手続きの経緯と今後の流れ



2. 対象事業の概要

対象事業実施区域の位置



現里庄清掃工場敷地内に建設予定

※施設の配置は、変更になる可能性有り

対象事業の概要

事業の名称：新ごみ焼却施設整備事業

事業の種類：一般廃棄物焼却施設の設置

項目		内容	
		新施設	<参考> 現施設
面積		約2ha	
処理方式		ストーカ式焼却炉	流動床式焼却炉
処理能力		130t/日 (65t/24h×2炉)	200t/日 (100t/16h×2炉)
煙突高さ		地上59m	地上59m
排ガス濃度	ばいじん	0.01 g/m ³ N	0.03 g/m ³ N
	硫黄酸化物	30 ppm	100 ppm
	塩化水素	50 ppm	200 ppm
	窒素酸化物	50 ppm	200 ppm
	ダイオキシン類	0.05 ng-TEQ/m ³ N	1 ng-TEQ/m ³ N
	水銀	30 μg/m ³ N	50 μg/m ³ N

公害防止計画

法令を遵守するとともに、周辺の環境に対する影響をさらに低減するため、一部項目については法令に定められた規制値よりも低い値を設定しています。

項目		内容	
新施設における自主基準値	排ガス	ばいじん	0.01g/m ³ N以下
		硫黄酸化物	30ppm以下
		塩化水素	50ppm以下
		窒素酸化物	50ppm以下
		ダイオキシン類	0.05ng-TEQ/m ³ N以下
		水銀	30 μgHg/m ³ N以下
	騒音	昼間（7時～20時）	65デシベル以下
		朝（5時～7時） 夕（20時～22時）	60デシベル以下
		夜間（22時～翌5時）	50デシベル以下
		振動	
	振動	昼間（7時～20時）	65デシベル以下
		夜間（20時～翌7時）	60デシベル以下
	悪臭	特定悪臭物質濃度	「第2種区域」に適用される規制基準
	水質	プラント系排水 生活系排水	「下水道法」「里庄町公共下水道条例」に基づく下水排除基準

車両の走行ルート



- 幅員の狭い生活道路を避け、可能な限り国道・県道等の幹線道路を走行
- 供用時において、笠岡市及び金光町方面からの運搬車両は、「国道2号 玉島・笠岡道路」を利用

3. 環境影響評価の項目

環境影響評価項目の選定

項目	工事中	供用時	主な影響要因
大気質	○	○	工事の実施、工事用車両の走行、廃棄物運搬車両の走行、施設からの排ガス
騒音・振動	○	○	工事の実施、工事用車両の走行、廃棄物運搬車両の走行、施設の稼働
悪臭	—	○	施設からの悪臭、排ガスの悪臭
土壌	○	—	土砂の移動や搬出、排ガスの土壌汚染物質
動物・植物・生態系	○	○	工事の実施、施設の存在
景観	—	○	施設の存在
人と自然との 触れ合いの活動の場	○	○	工事の実施、施設の存在・供用
廃棄物	○	○	工事に伴う廃棄物の発生 施設稼働に伴う廃棄物の発生
温室効果ガス等	○	○	工事に伴う温室効果ガスの発生 施設稼働に伴う温室効果ガスの発生

4. 環境影響評価の結果

大気質

1. 建設機械の稼働による影響

■ 二酸化窒素 (ppm)

予測地点	予測結果	環境保全目標	適合
敷地境界 最大地点	0.05	0.04~0.06 以下	○
直近民家	0.02		○

■ 浮遊粒子状物質 (mg/m³)

予測地点	予測結果	環境保全目標	適合
敷地境界 最大地点	0.04	0.10以下	○
直近民家	0.04		○



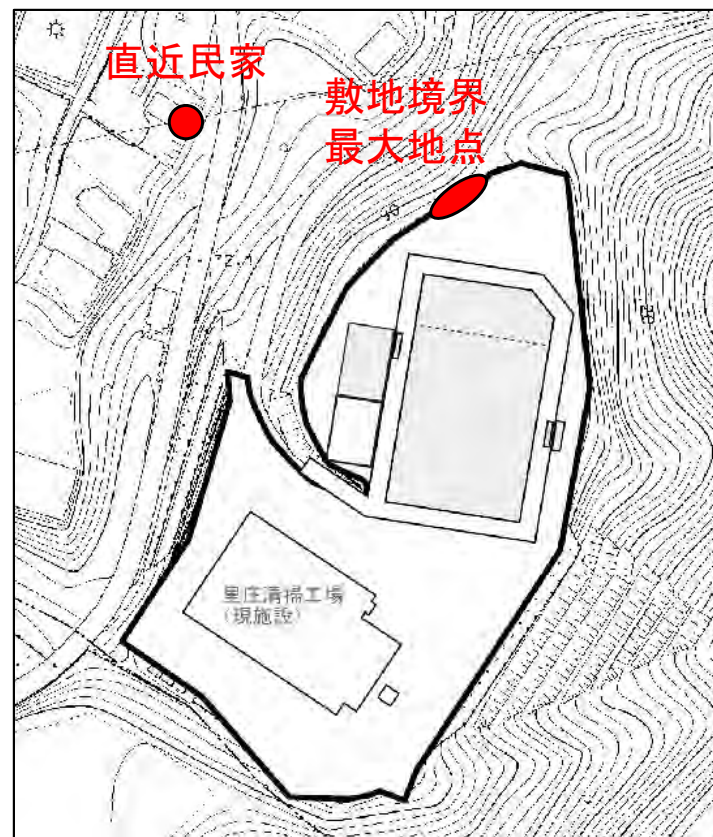
環境保全措置

- 排出ガス対策型機械の使用
- 建設機械の稼働分散
- 作業方法の配慮
(空ぶかし防止、アイドリングストップ等)

大気質 2. 土地の改変による影響

■粉じん等 (t/km²/月)

予測地点	時期	予測結果	環境保全目標	適合
敷地境界最大地点	秋	7.31	10	○
	冬	8.88		○
	春	9.11		○
	夏	10.07		×
直近民家	秋	0.14	10	○
	冬	0.29		○
	春	0.10		○
	夏	0.17		○



※敷地境界最大地点は、季節によって位置が異なる

環境保全措置

- 仮囲いの設置
- 工事区域内的の散水
- 工事用車両の洗浄
- 仮置き土へのシート被覆



大気質

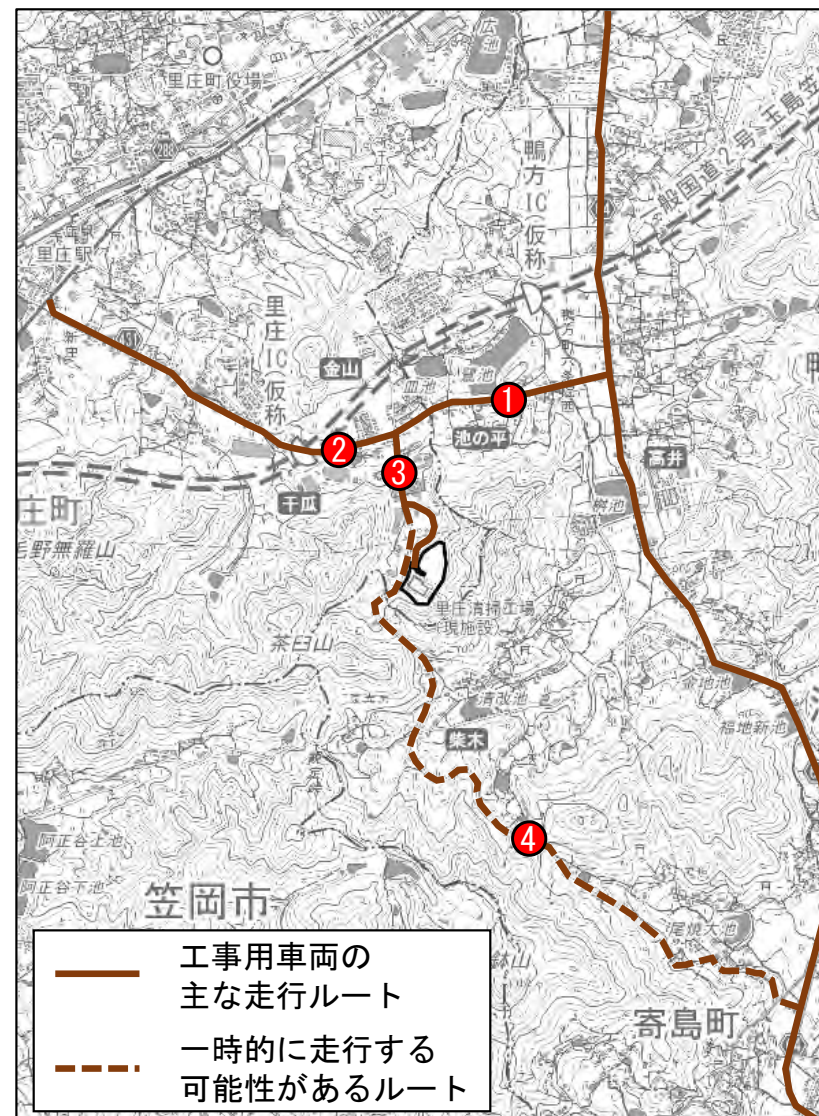
3. 工事用車両の走行による影響

■ 二酸化窒素 (ppm)

予測地点	予測結果	環境保全目標	適合
1	0.018	0.04~0.06 以下	○
2	0.020		○
3	0.018		○
4	0.016		○

■ 浮遊粒子状物質 (mg/m³)

予測地点	予測結果	環境保全目標	適合
1	0.043	0.10以下	○
2	0.043		○
3	0.039		○
4	0.047		○

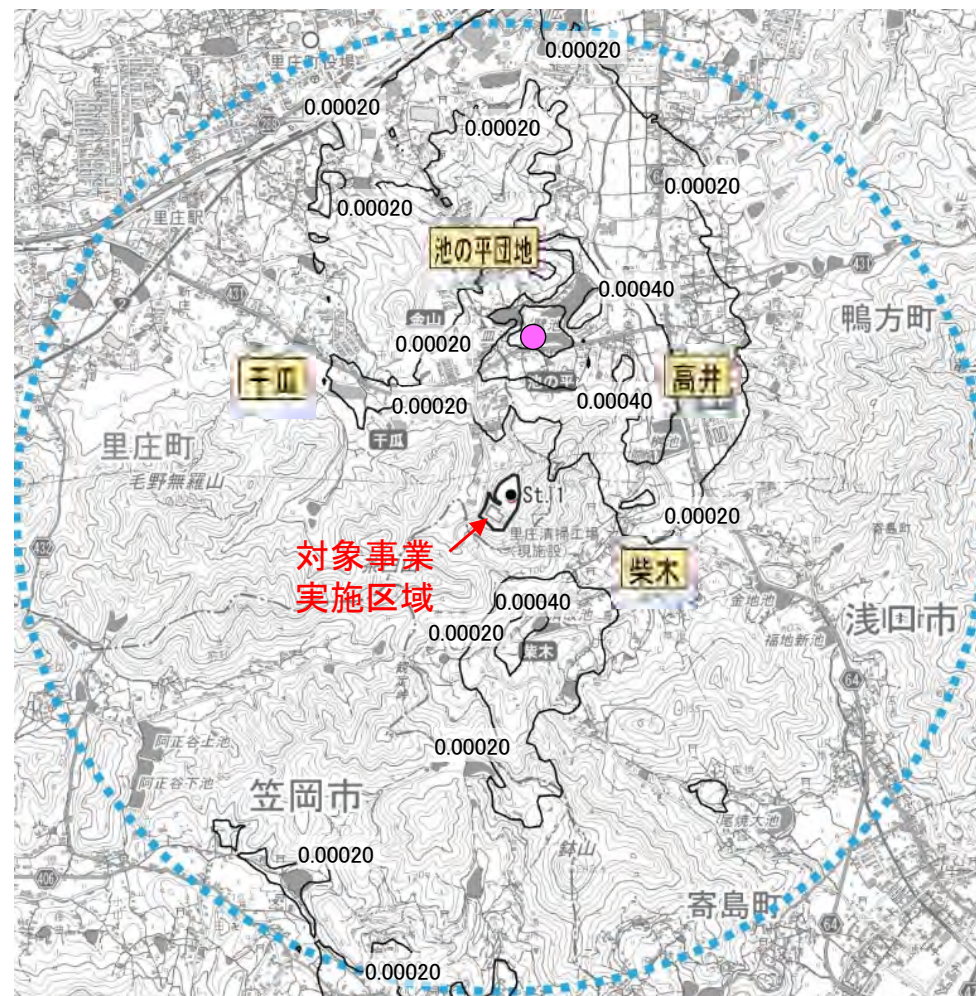


環境保全措置

- 排ガス規制適合車の使用
- 車両の分散
- エコドライブの実施

■長期平均濃度（最大着地濃度地点）

項目	予測結果	環境保全目標	適合
二酸化硫黄 (ppm)	0.0035	0.04以下	○
二酸化窒素 (ppm)	0.0094	0.04~ 0.06以下	○
浮遊粒子状物質 (mg/m ³)	0.0232	0.10以下	○
水銀 (μgHg/m ³)	0.0020	0.04以下	○
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0168	0.6以下	○



..... 予測地域 ● 最大着地濃度出現地点

図. 寄与濃度分布図（窒素酸化物の例）

大気質

4. 施設の稼働による影響

■短期高濃度

項目	予測結果	環境保全目標	適合
二酸化硫黄 (ppm)	0.0225	0.1以下	○
二酸化窒素 (ppm)	0.0405	0.1~0.2以下	○
浮遊粒子状物 (mg/m ³)	0.0795	0.20以下	○
塩化水素 (ppm)	0.0192	0.02以下	○

環境保全措置

- 焼却炉の適切な燃焼管理
- 排ガス濃度の連続監視、測定結果の確認

大気質

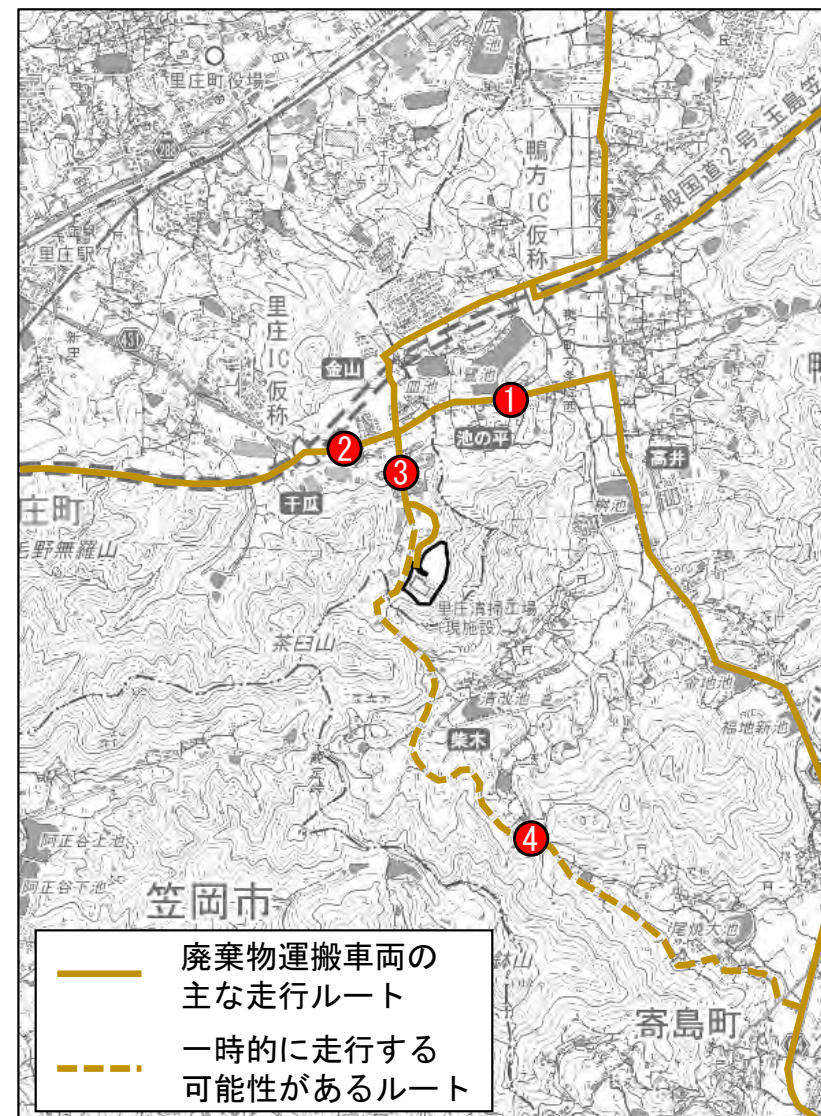
5. 廃棄物運搬車両の走行による影響

■二酸化窒素 (ppm)

予測地点	予測結果	環境保全目標	適合
1	0.018	0.04~0.06 以下	○
2	0.020		○
3	0.018		○
4	0.015		○

■浮遊粒子状物質 (mg/m³)

予測地点	予測結果	環境保全目標	適合
1	0.043	0.10以下	○
2	0.043		○
3	0.039		○
4	0.047		○



環境保全措置

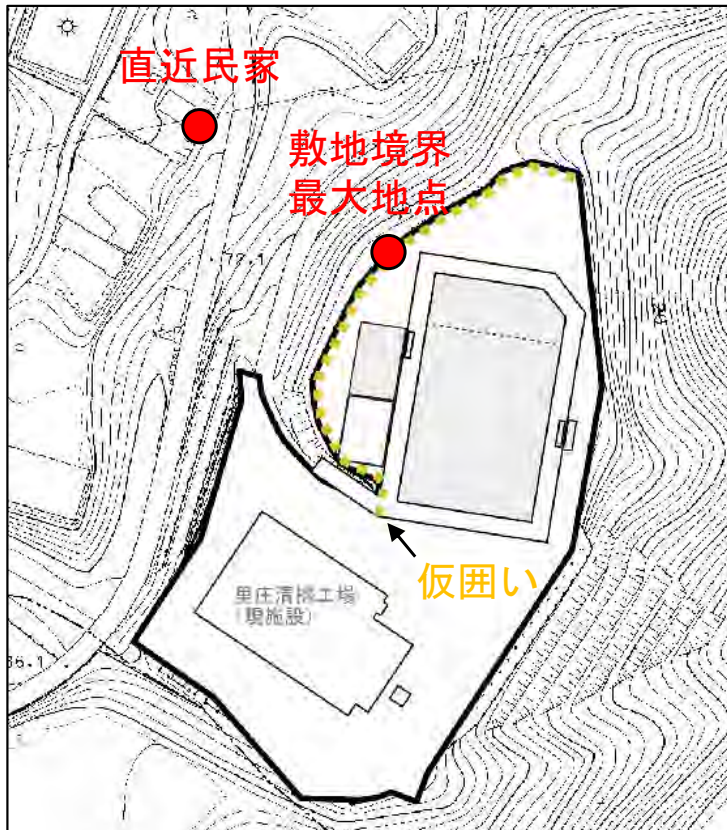
- 車両の維持管理の徹底
- エコドライブ等について運転手の教育、指導

騒音・振動

1. 建設機械の稼働による影響

単位：dB（デシベル）

予測地点	騒音		振動		適合
	予測結果	環境保全目標	予測結果	環境保全目標	
敷地境界 最大地点	71	85	66	75	○
直近民家	59	60	49	55	○



環境保全措置

- 低騒音型機械の使用
- 建設機械の稼働分散、稼働時間の配慮
- 仮囲い等の設置
- 工事期間中の測定
- 作業方法の配慮



騒音・振動 2. 工事用車両の走行による影響

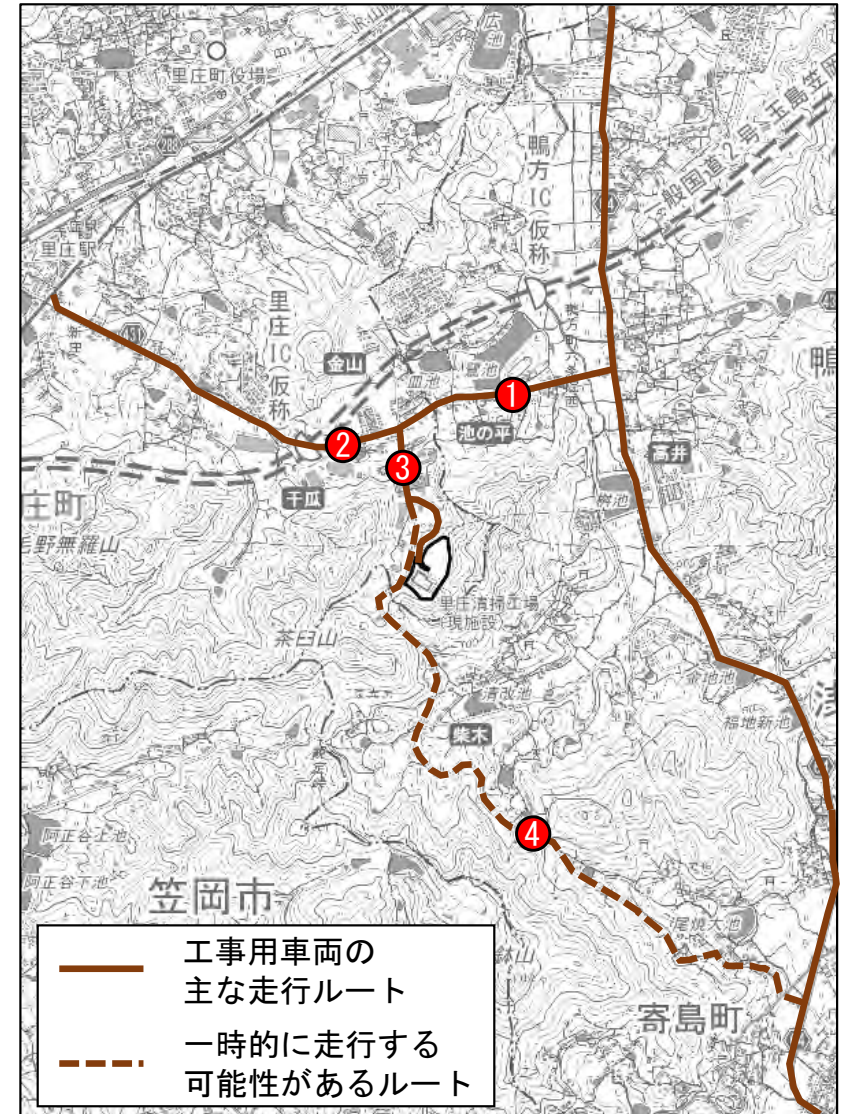
単位：dB（デシベル）

予測地点	騒音		振動		適合
	予測結果	環境保全目標	予測結果	環境保全目標	
1	68 (67)	70	40 (38)	55	○
2	66 (65)		43 (41)		○
3	63 (60)	65	34 (30)		○
4	61 (52)		49 (30)		○

※（ ）の値は、現地調査結果を示す。

環境保全措置

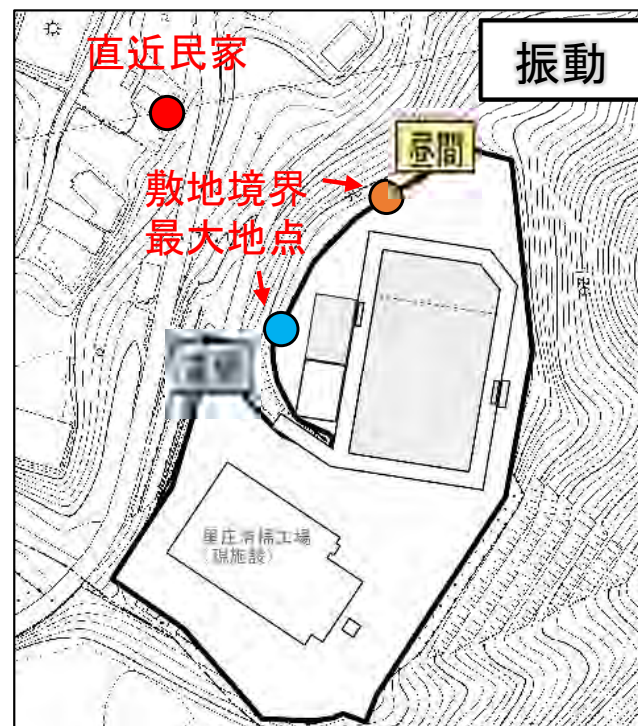
- 車両の整備、点検の徹底
- 工事用車両の分散



騒音・振動 3. 施設の稼働による影響

単位：dB（デシベル）

予測地点	時間帯	騒音		振動		適合
		予測結果	環境保全目標	予測結果	環境保全目標	
敷地境界最大地点	昼間	61	65	39	65	○
	夜間	46	50	35	60	○
直近民家	昼間	51	60	31	55	○
	夜間	40	50	30	55	○



環境保全措置

- 低騒音/振動型設備の採用
- 防音室への収納
- 防振基礎上への設置
- 施設設備の配慮
- 施設内の日常管理

騒音・振動

4. 廃棄物運搬車両の走行による影響

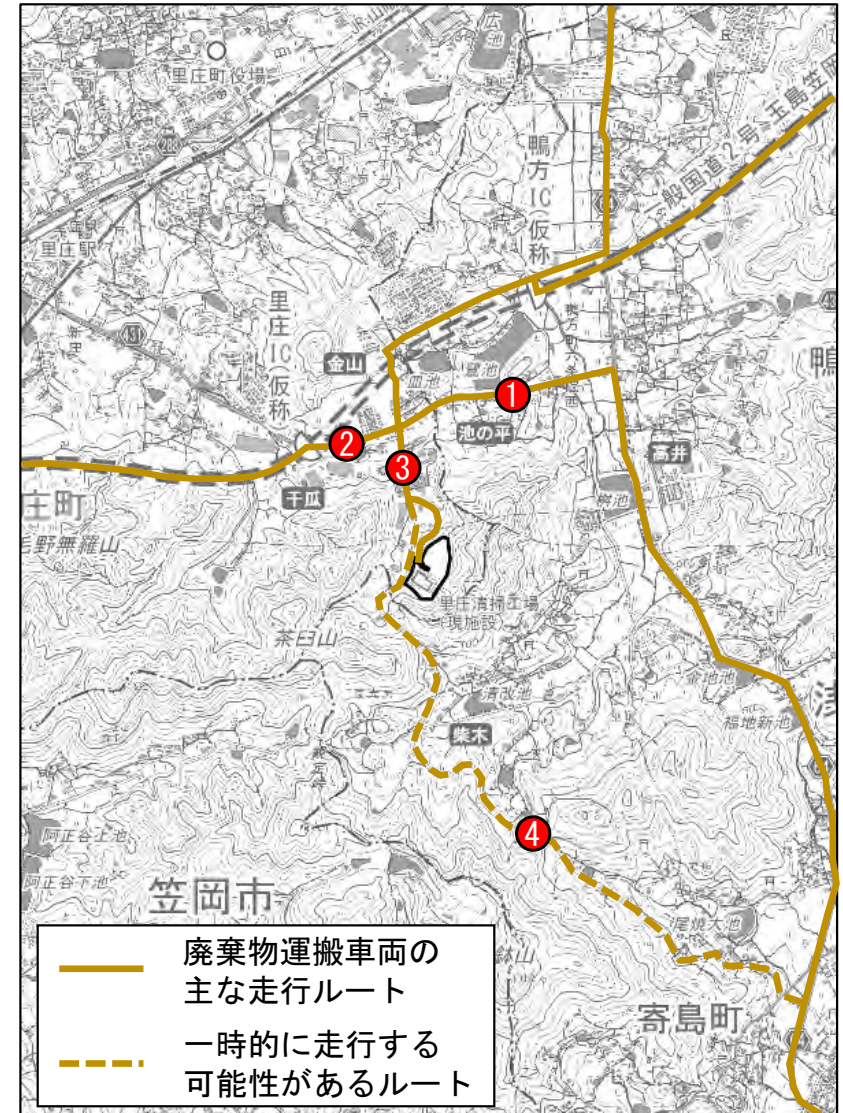
単位：dB（デシベル）

予測地点	騒音		振動		適合
	予測結果	環境保全目標	予測結果	環境保全目標	
1	67 (67)	70	38 (38)	55	○
2	66 (65)		43 (41)		○
3	64 (60)	65	34 (30)		○
4	54 (52)		35 (30)		○

※（ ）の値は、現地調査結果を示す。

環境保全措置

- 車両の整備、点検の徹底
- 運搬車両の分散



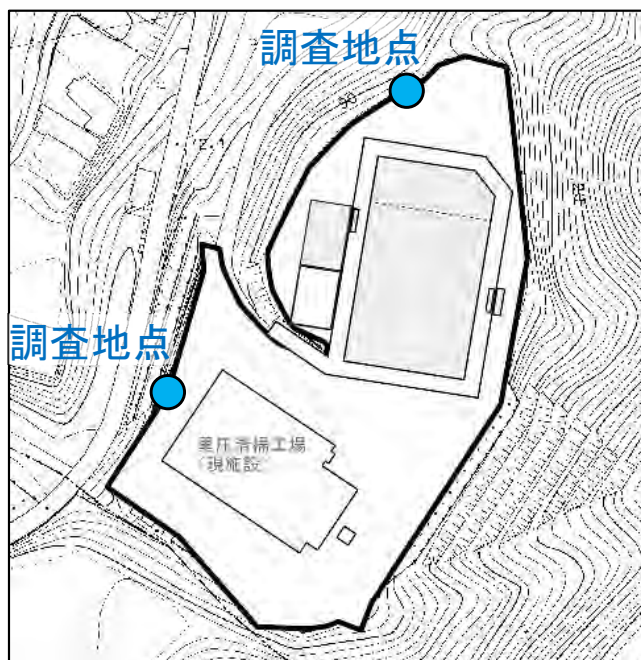
悪臭 1. 施設の存在・供用による影響

■施設からの悪臭の漏洩による影響

- 現施設周辺での現地調査の結果、特定悪臭物質（22物質）はすべて**規制基準を満足**していました。
- 新施設の供用後も、**周辺環境に及ぼす影響は小さい**ものと評価します。

■施設からの排ガスによる悪臭の影響

- 周辺への悪臭の影響が最大となる気象条件を想定した場合においても、**全地点で臭気指数10未満**と予測され、現況を悪化させないものと評価します。



環境保全措置

- 脱臭設備の設置
- 悪臭の漏洩防止
(高速シャッター、エアカーテン等)

水質・土壌

水質

- 工事に伴い発生する濁水は、工事区域内に設ける仮設沈砂池で沈降処理し、公共用水域に放流するため、周辺への影響は小さいと予測します。

環境保全措置

- 仮設沈砂池の設置
- 濁水の監視
- 著しい降雨時の土工事対応



仮設沈砂池のイメージ

土壌

- 工事区域内の土壌は、環境基準を満足する良好な状態です。
- 工事においては、土壌汚染の原因となる物質は使用しない、発生する土砂は場内利用を基本とするため、周辺への影響はないと予測します。

動物・植物

動物・植物

- ・重要な種が確認されたものの、本事業によって本種の生息環境を大きく改変しないため、影響は小さいと予測します。

項目	確認種数	重要な種
哺乳類	6目 6科 8種	
鳥類	11目 28科 57種	ミサゴ、ハチクマ、ツミ、ハイタカ、フクロウ、ハヤブサ、サンショウクイ、サンコウチョウ
両生類	2目 2科 4種	セトウチサンショウウオ
爬虫類	2目 7科 9種	
昆虫類・クモ類	16目 180科 544種	モンスズメバチ
陸産貝類	2グループ 8科 14種	ヒメカサキビ、シメクチマイマイ、 <i>Satsuma</i> 属
底生動物	6綱 14目 23科 32種	
植物	<シダ植物門> 13科 33種	
	<種子植物門> 84科 338種	ニッケイ

生態系

生態系

- 生態系の重要な生息環境基盤である樹林の改変は行いません。
- 本事業周辺の環境における生態系の注目種（ホンドテン、ハイタカ、コナラ群落、ニホンアカガエル、スズメ）の生息環境も大きく改変しないことから、影響はないと予測します。



景観

景観

- ・眺望景観に生じる変化の程度は小さいと予測されます。

<眺望景観のフォトモンタージュ>

位置：対象事業実施区域 北側交差点



人と自然との触れ合い活動の場・廃棄物等

人と自然との触れ合い活動の場

- 対象事業実施区域周辺の登山道等の直接改変は行いません。
- 施設からの騒音・振動・悪臭の影響は、環境保全措置により可能な限り回避・低減されるため、影響は小さいと予測します。

廃棄物等

- 工事の実施に伴い発生する廃棄物の約70%を再資源化できるものと予測します。
- 施設の稼働で発生する焼却残渣は、処分先の最終処分場で適切な処分を行います。

温室効果ガス等

温室効果ガス等

- 新施設における温室効果ガス排出量は、現施設と比較して65%程度に減少すると予測します。

区分	発生要因	温室効果ガス (tCO ₂ /年)	
		現施設	新施設
排出量	廃棄物運搬車両の走行	32,896	1,449
	ごみの焼却		23,384
	施設の稼働 (電気使用)		3,426
	施設の稼働 (燃料使用)		89
削減量	発電	0	7,835
収支 (排出量-削減量)		32,896	20,513

5. 事後調査の計画

事後調査の計画(工事中)

環境要素	調査項目	調査地点
—	工事計画、工事方法、環境保全措置の実施状況	—
大気質	粉じん（降下ばいじん）	工事区域敷地境界（1地点）
騒音・振動	騒音レベル、振動レベル	工事区域敷地境界（2地点）
		工事用車両走行ルート沿道（4地点）
	工事用車両の台数	工事区域の出入口付近（1地点）

※事後調査の内容は、工事の状況に応じて変更となる可能性があります。



事後調査の計画（供用中）

環境要素	調査項目	調査地点
—	施設計画、施設の稼働状況、環境保全措置の実施状況	—
大気質	二酸化硫黄、窒素酸化物、浮遊粒子状物質、塩化水素、ダイオキシン類、水銀	周辺集落の代表地点（4地点）
騒音・振動	騒音レベル、振動レベル	施設敷地境界（2地点）
		廃棄物運搬車両走行ルート沿道（4地点）
	廃棄物運搬車両の台数	施設の出入口付近（1地点）
悪臭	特定悪臭物質濃度 臭気指数	施設敷地境界（2地点）
景観	眺望景観	対象事業実施区域 北側交差点

※事後調査の内容は、供用時の状況に応じて変更となる可能性があります。

6. 縦覧の案内・意見書の提出

準備書の縦覧について

縦覧場所	縦覧期間	縦覧時間
◆岡山県西部衛生施設組合 岡山県笠岡市平成町100番地	令和4年2月28日(月)～令和4年3月22日(火)	8:30～ 17:15
◆岡山県西部環境整備施設組合 岡山県浅口郡里庄町大字新庄3655番地		
◆笠岡市役所 市民生活部環境課 岡山県笠岡市笠岡2369番地14		
◆浅口市役所 生活環境部環境課 岡山県浅口市鴨方町六条院中3050番地		
◆里庄町役場 町民課 岡山県浅口郡里庄町大字里見1107番地2		

※上記のほか、岡山県西部衛生施設組合ホームページでもご覧いただけます。

意見書の提出について

環境の保全の見地から、準備書に意見のある方は、事業者または岡山県知事に対して意見を提出することができます。

<提出期限>

令和4年3月29日（火） 必着

<提出方法>

郵送、ファクシミリ、直接持参

<提出先>

岡山県西部衛生施設組合

〒714-0054 岡山県笠岡市平成町100番地 FAX：0865-66-2686

岡山県環境文化部環境企画課

〒700-8570 岡山県岡山市北区内山下2丁目4番6号 FAX：086-233-7677

<意見書への記載事項>

- ①意見書を提出しようとする者の氏名及び住所（法人その他の団体にあつては、その名称、代表者の氏名及び主たる事務所の所在地）
- ②意見書の提出の対象である準備書の名称
- ③準備書についての環境の保全の見地からの意見

新ごみ焼却施設整備事業への
ご理解とご協力をよろしくお願いいたします